

# 医療分野の課題発掘対話 〈保険者の立場から〉

令和6年4月16日

健康保険組合連合会 佐野 雅宏

# 医療DXに関する基本認識

医療DXは「安全・安心で効果的・効率的な医療」に向けた手段。  
医療DXの進展により、国民・患者の受診行動が劇的に変わるチャンス。

国民・患者の利便性向上、医療の質の向上、医療資源・コストの効率化が同時に達成可能

## 〈これまでの取組〉

医療DXのベースとなるインフラ整備の構築

=いわば“先行投資”の段階

- オンライン資格確認等の体制整備(概ね完了)
- マイナ保険証による受診が前提(本年12月実施)



## 〈今後の取組〉

新たな体制・システムによるメリットの具現化

- 医療DXによる変化の全体像を示すこと
- 個々のDX施策のメリットを進化させること
- 国民・患者に対して、受診行動・システムが変わることについて、理解を深める周知

マイナ保険証、電子処方箋、オンライン服薬指導(長期処方・リフィル処方)、オンライン診療等、政府が進めている施策の効果を、国民の「腑に落ちる状態」に早期に持つて行く必要がある。

## 【各当事者の役割】

医療機関・薬局 受診時の受付体制や診察の流れを見直すこと

保険者 国民・患者に対する受診行動の変化を促すこと

# 医療DXを前提とした医療の姿【体調不良のケース】

## これまでの流れ

患者は医療機関の受診を自分で判断

保険証と診察券を医療機関の窓口で提示

患者が問診票に過去の治療歴や健診情報を記入

医師は問診票やお薬手帳を参考に治療法を決定

患者は医療機関の窓口で紙の処方箋を受け取る

患者は薬局に紙の処方箋を持参

薬剤師が処方箋とお薬手帳を参考に処方を検証し、調剤

患者は医薬品を受け取り、帰宅

かかりつけ医がいない患者に**オンライン事前相談**で受診の要否、オンライン診療か対面診療かを医療機関が助言  
→患者の利便性と安全・安心の向上

オンライン診療の場合：**自宅等からスマホで受診**  
対面診療の場合：**マイナ保険証1枚で受付が完了**  
→患者の利便性が向上

オンライン資格確認等システムで確認可能な情報は問診時に記入が不要で、**記憶に頼らず記入できる**。  
→患者の負担が軽減

オンライン資格確認等システムと電子処方箋管理サービスの活用により、**重複投薬等を確実に是正**  
→医療の質と患者の安全が向上

電子処方箋を受け取り、**その場で薬局に送信**  
オンライン服薬指導の場合：**自宅等からスマホで対話**  
薬局に出向く場合：**来局前に調剤に準備を完了**  
→患者の利便性が向上

オンライン資格確認等システムと電子処方箋管理サービスの活用により、**重複投薬等を確実に是正するとともに、薬剤師は対人業務に注力できる**。  
→医療の質と患者の安全が向上

オンライン服薬指導の場合：**自宅に医薬品が配送**  
→患者の利便性が向上

# 医療DXを前提とした医療の姿【慢性疾患のケース】

- 疾患の状態に応じ、**患者の負担が少ない受診方法で継続的に疾病管理**。  
→患者の利便性向上、医療資源の節減
- **医師は病態が不安定な患者に集中**し、働き方改革にもつながる。  
→医療資源の節減（医師の負担軽減）、医療の質向上
- **薬剤師が対人スキルを向上**させ、タスクシフト／タスクシェアの好循環。  
→医療資源の節減（医師の負担軽減）

患者は、マイナポータルと連動した「電子版お薬手帳」も活用し、OTCを含めた服薬情報を自己管理

病態が不安定な場合  
月1回程度  
定期的に通院し  
丁寧な対面診療

病態がある程度落ち着き  
毎回の検査が不要な場合  
オンライン診療  
オンライン服薬指導

病態が安定し  
同じ処方が続く場合  
リフィル処方  
薬剤師が病態を把握  
医師とICTで情報共有

さらに病態が安定し  
患者の自己管理が定着してきた場合  
長期処方

病態が悪化した場合、かかりつけ医・かかりつけ薬剤師の判断で柔軟に対応を変更